

特集 大雨による災害から身を守るために

方法その②

「大雨・洪水」
注意報・警報について知ろう!

大雨による災害が発生する危険性が高まった時、気象庁から注意報や警報が発表されます。これらの情報に注意し、身の危険を感じたら自主的に避難するなど、安全を確保しましょう。

<p>大雨・洪水注意報 災害が発生するおそれがある</p> <p>大雨 大雨により、浸水災害や土砂災害などが発生するおそれがあると予想したとき</p> <p>洪水 大雨、長雨、融雪などにより、河川の増水や氾濫、堤防の損傷や決壊による災害が発生するおそれがあると予想したとき</p>	<p>大雨・洪水警報 重大な災害が発生するおそれがある</p> <p>大雨 大雨により、重大な浸水災害や重大な土砂災害などが発生するおそれがあると予想したとき</p> <p>洪水 大雨、長雨、融雪などにより、河川の増水や氾濫、堤防の損傷や決壊による重大な災害が発生するおそれがあると予想したとき</p>	<p>大雨特別警報 「警報」よりもはるかに高い危険度</p> <p>大雨 台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される、または、数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想したとき</p> <p>記録的短時間大雨情報 大雨警報が発令中、数年に一度の猛烈な雨を観測・解析したとき</p>
---	--	---

方法その③

「避難情報」が発令された時にとるべき行動を知ろう!

大雨や地震などにより、災害が発生する危険性が高まった時に、市の災害警戒（対策）本部から「避難情報」を発令します。情報を受け取ったら、最寄りの避難所に避難するなど、速やかに適切な行動を取りましょう。

<p>避難準備・高齢者等避難開始 避難の準備を始めてください</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 家族や親戚との連絡、非常時持ち出し品の用意など、避難準備を開始してください ● 避難行動要支援者の人は避難を開始してください 	<p>避難勧告 避難してください</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 速やかに避難を開始してください ● 避難行動要支援者の人は避難を完了してください 	<p>避難指示(緊急) ただちに避難してください</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 一刻も早く避難を完了してください ● 避難行動に危険が伴う状況の場合、命を守る最低限の行動を開始してください
---	---	---

「避難情報」を入手する方法

市では、次の方法で避難情報などを発信しています。皆さん、事前に入手する準備をしておきましょう。

津山市災害情報メール

登録方法 Eメールアドレス「t-tsuyama@sg-m.jp」へ空メールを送る、またはURLから登録する

パソコン URL

https://service.sugumail.com/tsuyama/member

携帯電話・スマートフォン URL

https://service.sugumail.com/tsuyama/



防災行政無線 加茂・阿波・勝北・久米地域では、防災行政無線で災害情報の伝達を行っています。

緊急告知防災ラジオ

災害などの発生時に自動でスイッチが入り、情報を聴くことができるラジオです。購入補助がありますので、ぜひご利用ください。

対象 旧市内に住所を有し、居住している人（1世帯1台まで）

補助金額 購入に要した費用の3分の2以内（上限6千円）

申込先 危機管理室（市役所3階）

※この補助制度は今年度で終了



特集

大雨による災害から

身を守るために

6月は梅雨・集中豪雨の季節です



津山市内では、昨年（平成29年）も大雨による災害が発生しました。また、九州北部でも豪雨による災害が発生し、特に福岡県や大分県では甚大な被害がありました。今回は、災害から身を守るための方法など、知っておきたいことをお知らせします。

危機管理室 ☎ 3212042

方法その①

「雨の強さと危険性」を知ろう!

雨の強さや降り方によって、災害が発生する危険性が異なります。雨の降り方の違いを事前に知っておくことで、いざという時の判断に役立ちます。

	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
予報用語と1時間雨量	10~20mm未満	20~30mm未満	30~50mm未満	50~80mm未満	80mm以上
人が感じるイメージ	● ザーザーと降る	● どしゃ降り	● バケツをひっくり返したように降る	● 滝のように降る（ゴーゴーと降り続く）	● 息苦しくなるような圧迫感がある ● 恐怖を感じる
屋外への影響	● 地面からの跳ね返りで足元がぬれる	● 傘をさしていてもぬれる ● 車の場合、ワイパーを速くしても見づらい	● 側溝などがあふれ、道路が川のようになる	● 傘がまったく役に立たなくなる ● 水しぶきで、あたり一面が白っぽくかすみ、視界が悪くなる	
災害の危険性	● 長く降り続く時は土砂災害などが発生する危険性が高まる	● 側溝や水路、小さな川があふれ、道路が冠水するおそれや小規模なげ崩れのおそれがある	● 山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり、危険地帯では避難の準備が必要	● 土石流が起りやすい ● 多くの災害が発生する	● 大雨による大規模な災害が発生するおそれが強くなり、厳重な警戒が必要